



安方中だより

令和5年4月26日 第1号

大田区立安方中学校

新年度のご挨拶

校長 佐藤 彰

4月6日に始業式が行われ、翌7日の入学式では5クラス、143名の新入生を迎え、令和5年度が始まりました。

始業式では、「切り替えがしっかりとできる人になってほしい。勉強も部活動も、大きく伸びるためには、やる時はやるという姿勢がとても大切である。意識を高くもって、個人としても集団としても切り替えができるようにしてもらいたい」という趣旨の話をしました。また、「進級すると責任が重くなり、やるべきことも増える。しかし、何かをやり遂げた時の喜びや達成感は今までは比較にならないくらい大きくなる。重い責任の先にある、大きな喜びややりがいをつかんでほしい」という内容で講話をしました。

入学式の式辞は、「違いを認め合う」ということを伝えました。「私たちのまわりには、育ってきた環境が違う・性格や考え方が違う・見た目が違う・物事の受け取り方や反応が違う・得意なことや不得意なことが違うという人が大勢いる。自分とは違う人と仲良くしていくことで視野が広がり、心が豊かになっていく。自分とは違うからといって、仲間外れにしたりからかったりすることは断じてあってはならない。お互いに違いを認め合うことで、雰囲気は温かくなり、安心して学校生活を送ることができる」というような内容です。このような価値観は、新入生だけでなく全生徒が共有できて、正しい判断や行動ができるように、粘り強く指導してまいります。

さて、今年の7月から、いよいよ校舎改築工事が始まります。校庭が現在よりも狭くなり、特別教室の一部が取り壊しになるなど、生徒の皆さんには不自由をかけることもあるかもしれません。このような状況なので、ここ数年の間は生徒数や学級数が減少を続けることも予想していました。ところが、この度は143名の新入生を迎えることができ、1年生は3クラスから5クラスへと大幅に増える運びとなりました。保護者の皆様に感謝申し上げますとともに、本校の生徒が落ち着いて生活し、行事や部活動にも熱心に取り組んでいるからこそだと感じています。皆様の期待に応えられるよう、これからも挑戦し続ける学校を目指していく所存です。

新学期が始まって3週間ほど経ちましたが、1年生はとても元気に生活しているようで安心しています。慣れないことが多く疲れているかもしれませんが、休息を上手に入れながら乗り切ってほしいと願っています。2・3年生は、先輩として最上級生としての自覚が、明らかに芽生えていると感じます。先輩は、「後輩から常に見られている」という意識をもつことが大切です。「お手本になりたい、みっともないことはできない」という自覚が、自分の思考や行動を変えていきます。2・3年生は、安方中のよさを確実に引き継いでいると感じていて、とても嬉しく思っています。

令和5年度の出発にあたり、保護者の皆様、地域の皆様の本校への温かいご支援とご協力を、引き続きよろしくお願いたします。



【入学式の様子】